

## 宮本 繁

先生

圧をぬいたあとの開放感というのも  
とても気持ちがいいものです

今回は、東京多摩市にあるライフ鍼・吸玉サロン院長の宮本繁先生です。多摩センター駅から徒歩7分ほどのところにあります。先生にはファインド186号のそぼくな疑問のコーナーで吸玉療法について回答記事を書いていただきました。今回は治療家になられた経緯や吸玉療法の実際などについて伺いました。

●吸玉療法とはどのような療法ですか？

ガラスのカップを皮膚に接着させて置き陰圧にすると、皮膚はカップの中に吸引される状態になってそれが刺激となります。皮膚の下では毛細血管が拡張状態になり、物質代謝が活発になります。また同時に血管を支配する神経も刺激されて、鍼と同じような治療効果が得られるのです。吸玉療法自体は古くからさまざまなかたちで世界各地にある民間療法なのですが、それだけ信頼されている治療法だといえます。今はあまりメジャーではないのかもしれませんが、補助的な治療としてもとても使いやすい療法だと思います。

●溢血斑が強く残りますね。吸玉といえば溢血斑、というイメージが強いのは確かです。溢血斑を出さないと効いていないと思われがちですが、そうではありません。溢血斑の出方がからだの状態をあらわしているということはあるのですが、逆にあまり溢血斑にこだわると吸引

を強くしすぎたりして刺激量を間違えてしまいます。あくまで溢血斑は結果だと理解してほしいですね。斑はだいたい2～3週間くらいで消えます。

●なぜ吸玉療法をご自分の治療に取り入れられたのですか？

私は小学生の頃から父の腰をもんだりしていたのですが、最後には吸玉をかけていました。もちろんそのころは父に言われるままにやっていたものです。親戚に鍼灸師がいたこともあり、高校卒業後は鍼灸の学校に行き、その後接骨院やクリニックなどで仕事を始めました。その頃は仕事と同じくらいの比重で運動に夢中になっていました。しかしからだも作らずに始めた運動だったので腰痛がひどくなりました。同僚に治療してもらったりしていたのですがそれも頼みづらくなって。自分でなんとかしようと吸玉を使ったのです。やってみると効果があり、父が私にさせていたのも納得がいったものです。ただその時はなんで吸玉が効くのかまで深く

追及することはありませんでした。その後、自分の治療に対して疑問が生じてきました。効く人には効いても効かない人には効かない、何故だろうと。その頃にたどり着いたのが内臓体壁反射の理論でした。西洋の五臓六腑と東洋の五臓六腑の考え方は根本的に違うものではありません。体表から内臓に働きかけるという意味では矛盾するものではありません。いわば中医学も内臓体壁反射の一つとも考えられます。ですからこの理論はすんなりと入ってきて私にとってはとても勉強しやすかったのです。結果として中医学を自分の治療に取り入れ、自分の治療に納得がいくようになりました。現在は東西両洋の体壁反射理論を、鍼、吸玉治療を通して体系化できればいいなと思っています。

●吸引の圧刺激はどのように決めるのですか？

刺激量は、吸玉の個数と吸引の強さと時間、この三点で決めていきます。患者さんの体格、体質、症状に対して、吸玉の吸引の強さ、吸着させり個数、吸着させている時間を考えています。たとえば虚証であれば“補”が原則ですからその場合は鍼の本数を少なくして吸玉を増やし

ライフ鍼・吸玉(はり・すいだま)サロン  
〒206-0041  
東京都多摩市愛宕4-9-7ハロズプラザ303  
Tel:042-389-6201 Fax:042-389-6201  
Email:life@suidama.jp  
<http://www.suidama.jp>  
東京都出身 昭和49年生

たりしますが、それも刺激量であんばいすることになります。またカップの大きさによっても刺激量に変化して、内臓への伝わり方も違ってきます。一般的な治療においては、まず基本療法として全体の治療をし、それに対症療法などの補助療法を加えていきます。私は電動式の吸引器を2台使っていますが、圧としてはほしい-42kph(キロパスカル)で吸引しています。診断をもとにここまで個数をつけられればいかなという範囲で患者さんの様子をみながら吸着を行っていきます。

●施術後にはどんな反応が起こりますか？

施術後の反応としては、だるさ、ふらつき、眠くなったり、お腹がすくなどがあります。からだ全体の神経調整をしているのですからそういう反応は起こりやすいといえます。患者さんには「それは問題ない症状ですよ」と説明してご理解いただいています。また、吸引されているときも気持ちがいいのですが、圧をぬいたあとの開放感というものとても気持ちがいいものです。その意味でも鍼とは別の印象が与えられます。最初に鍼でコリなどの軽減を確認しておいて、そこに吸玉をあてると、当

然ももっと改善されるだろうという安心感もあるのです。

●溢血斑もあり、患者さんは吸玉に抵抗感はありませんか？

20歳くらいの方から80歳以上の方がいらしていますが、特に抵抗感というのはないようです。自分の症状に対してもっとも効果的な治療を求めてこられるので、鍼でも吸玉でも自分にとってよい方法であれば。またご吸玉を購入してご自分でされている方もいます。吸玉は鍼と同じような効果を得ることができません。その点吸玉では広い面にそのツボが入っていればいいし、内臓に働きかけることもできます。さらに筋肉も面でもとらえられて、ほぐすこともできます。その意味でも一般の方には使いかたがいいのではないのでしょうか。治療院での料金は決して安くありませんから、私としては患者さんにご自分でご自分の手当てができるようにお手伝いし、すこしでも負担を軽くして

あげたいと思っています。もちろん一般の人にはどこがどう内臓と結びついているのかという知識はありませんから、まずは全身を整える基本をやってもらって、その上で、臓腑に対応して神経の集まった場所などのポイントを私が印をつけてあげて、家でやっていただくこともあります。

●先生は講習会なども開かれているとのことですが。

この飽食の現代、不規則になりがちな生活のなかで理想の健康状態を維持することは、とても難しいことだと思います。そんな乱れがちな身体のバランスを整えるために、患者さんご自身が自宅でも吸玉を用いることができれば、来院の回数なども減ることになりますし、いいことだと思います。また治療家の中にも治療において吸玉を使いたいという方々もいらっしゃいます。そういった方々を対象に講習会を開催していますので、役にたてていただきたいと思っています。

一つ一つわかりやすくお話をさせていただきました。吸玉療法の、治療法としての豊かな可能性を教えていただいたように思います。講習会を開催することは、患者さんがご自分で健康維持するためのお手伝いでもあることです。今後は鍼、吸玉療法をとおして、ご自身の治療法を追求していきたいとおっしゃっていました。

